

【吉賀町】 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

吉賀町では「ふるさとでの学びや体験をもとに、いつの日かふるさと吉賀町を支える人材(財)の育成」という基本理念のもとに、学校・家庭・地域が一体となって取り組む全町教育として「サクラマスプロジェクト」を推進している。

子どもたちの学びの環境は学校における授業だけではなく、放課後や家庭での時間においても主体的・対話的で深い学びの環境を実現するために、学校教育と社会教育が同じICT環境を整備していくことを基本とし、あらゆる分野において1人1台端末を効果的に活用することで、子どもたちが自らの興味関心から学びを深めていくための情報活用能力の育成を推進していく。

また、1人1台端末を積極的に活用していくことにより、様々な事情や環境等に左右されることなく、子どもたちに必要な力を育む学びの機会が提供されるよう、誰一人取り残さない教育を目指している

2. GIGAスクール構想「第1期」の総括

吉賀町は、令和2年度に全ての児童生徒に1人1台端末の調達整備を行い、令和3年度から運用を開始した。Wi-Fiモデルを導入したため、各家庭においては通信環境の確保にご協力いただくとともに、公民館などの社会教育施設においても児童生徒が利用できるWi-Fi環境を整備した。

また、「クラウド・バイ・デフォルト」を基本としていくために、可能な限りブラウザベースのサービスを選定・利用し、「規制よりも習熟」という考え方を打ち出し、運用当初からチャットやメール等も利活用できるようにしてきたことで、児童生徒たちにとっても1人1台端末における自由度が担保され、活用実績を上げることができた。

一方で、それぞれの学校の授業や学習面においては、それぞれの学校長や教職員の考え方があり、端末の持ち帰りや活用頻度も異なっている状況がある。そうした風土や文化が、児童生徒の学習機会や能力育成における格差につながってしまうのではないかと懸念を持っており、今後の課題としていきたい。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGAスクール構想における1人1台端末等の整備、活用によって、学校での授業や家庭学習での端末の日常的な活用が根付きつつある。第2期においても、予備機を含め、端末を適切に更新し、1人1台端末環境を引き続き維持することを前提として利活用を推進していく。

学校はもちろん、社会教育や地域社会のDXとも連動しながら、学習や生活など様々な場面に応じた文具的な活用を推進する。

学校現場におけるICTトラブルやお困りごとなどに教育委員会が積極的に関与し、必要な研修会等も実施していくことで、安心して端末を利用できる環境を構築していく。